

平成 30 年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



平成 30 年 12 月
海老名市立柏ヶ谷中学校

目次

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「理科に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 4
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 5
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 6

資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童・生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・小学校第6学年
 - ・中学校第3学年

◆ 調査内容

(1) 教科に関する調査

【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)
- 理科 (主として「知識」「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

(3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成30年4月17日(火)



国語に関する調査結果

国語 A (主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことができます。
- 行書の基礎的な書き方を理解して書くことができます。

《努力を要する所》

- 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書くことに課題が見られます。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことが苦手です。

国語 B (主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 質問の意図を捉えることができます。
- 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書くことができます。

《努力を要する所》

- 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することが苦手です。
- 登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることに課題が見られます。

これまでの取組から

- 今回の調査では、論理的な構成や展開などに注意して話を聞く力が身につけているという結果がうかがえました。2年次から授業の中で発表や交流等、生徒の主体的な活動を取り入れてきた成果だと考えられます。

今後の具体的な取組について

- 今回の調査を受け、論理的な構成や展開などに注意して聞く力が優れていたため、今後も発表や交流等を継続的に行っていきます。
- 登場人物の描写や言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることに課題が見られたので、物語文の読解の仕方を工夫します。



数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」の領域における連立二元一次方程式をよく理解しており、「数学的な技能」に優れています。
- 「図形」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に優れています。特に、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件をよく理解しています。

《努力を要する所》

- 「関数」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。関数の意味や反比例の理解不足による誤答が多くありました。
- 「資料の活用」の領域における「数学的な技能」に努力を要します。特に、度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることに対する理解不足が見られました。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 「数と式」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、与えられた説明の筋道を読み取り、事象を数学的に表現することに優れています。
- 「資料の活用」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、資料の傾向を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することができています。

《努力を要する所》

- 「図形」の領域における「数学的な見方や考え方」に努力を要します。特に、証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだす力をつけることが必要です。
- 「関数」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。与えられた情報を適切に読み取る力をつけることが必要です。

これまでの取組から

- 本校では2年次に習熟度別少人数指導を取り入れることにより、問題に向き合う学習意欲の向上や、基礎的・基本的な知識・技能の習得について効果が上がっていると思われまます。

今後の具体的な取組について

- 反復して問題に取り組み、基礎学力を養っていきます。特に、「関数」については、与えられた表やグラフ、式から必要な情報を選択し、数学的に表現する力を養っていきます。また、ノート指導を重点的に行います。



理科に関する調査結果

《優れている所》

- 「生物的領域」において、無脊椎動物・軟体動物の体のつくりの特徴についての知識に関する正答率が高く、よく理解していることがうかがえました。「知識を活用する力」に優れています。
- 「化学的領域」において、ガスバーナーの使い方や特徴についてよく理解しており、「観察・実験の技能」に関する基本的な実験器具に関する知識の習得が見られました。
- 「化学的領域」において、アルミニウム原子の記号の表し方についての知識を身につけています。

《努力を要する所》

- 「地学的領域」における「地震に関する知識」に関する誤答が多くみられました。P波S波の違いや、その知識を生かして緊急地震速報を用いての観測地点の指摘への理解不足が目立ちました。
- 「地学的領域」において、天気に関する観測方法や気団についての知識の誤答が多く目立ちました。また、それらの知識を生かしての台風の進路を決める条件についての誤答が多く目立ちました。

これまでの取組から

- 実験に対して積極的に取り組む姿勢から、身の周りの自然事象に興味関心を持たせることができました。実験活動を通して、理科への学習意欲が得られたことと、班で結果や考察を検討することから、言語活動の充実を図れました。

今後の具体的な取組について

- 授業や、実験を通して得た知識を応用する場面を増やします。問題演習や、実験考察を書く機会を増やし、理科の学力定着に重点を置いていきます。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 地域行事に参加している生徒は少ないが、授業や課外活動で地域を調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと答えた生徒の割合は74%で県や全国を上回っています。職場体験・職業講話・地域清掃活動・講演会（地域貢献活動）・防災教育などで、地域の方と接する機会が多かった結果と考えています。
- 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたりすることができていると思う生徒は、全国平均に近く、県をやや上回っています。

《課題と思われる所》

- 家庭などでの学習時間が1時間未満の生徒の割合が、35%で学習時間が少ない生徒が、やや多くいました。
- 授業の予習・復習を全くしない生徒の割合が28%と高く、自分で学習計画を立てている生徒は三人に一人の割合でした。

生活について

《よかった所》

- 朝食をほぼ毎日食べていると答えた生徒の割合は、91.1%で県平均とほぼ同じでした。
- 「学校の規則を守っていますか」との質問に「当てはまる」と答えた生徒の割合は、65.2%と高く、「どちらかという」との回答と合わせても県平均よりも高い数値でした。

《課題と思われる所》

- 就寝時刻がほぼ毎日同じ生徒の割合が61.2%で全国平均よりも10ポイント以上低く、起床時刻がほぼ同じ生徒の割合も83.9%で全国平均よりも低い数値でした。
- 「将来の夢や目標をもっていますか」に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした生徒の割合は62.1%で全国平均より約10ポイント低い数値でした。

これまでの取組から

- 朝読書の時間を設けており、読書をする習慣が身につけている生徒が多くいます。
- 総合的な学習の時間・道徳・特別活動・各教科の時間に積極的に話し合い、相手のことを考える機会を意識的に設けてきました。

今後の具体的な取組について

- 生徒は、実験などを通して学習内容を理解していると感じています。知識を定着させるため計画的に復習できるように授業を改善します。
- 定期テスト前の学習計画表や夏休み・冬休みの計画表の作成を今後も続け、生徒が明確な目標を持ち、計画的に生活する習慣が身につく取組を更に工夫します。

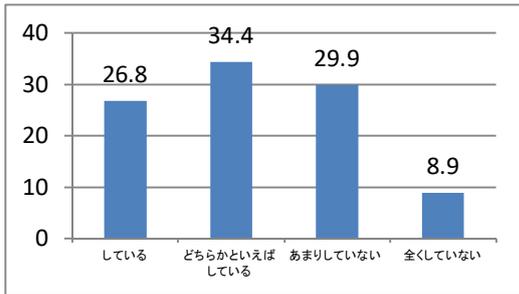
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 同じ時刻に起床・就寝する生活習慣を身につけましょう。

起床・就寝の時間が不規則な生徒がやや多めでした。特に4割近くの生徒が就寝時刻が不規則でした。

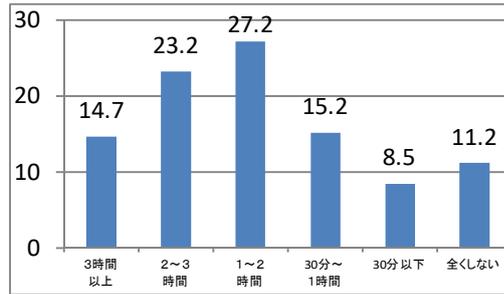
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



2 毎日、学習する習慣を身につけましょう。

約38%の生徒が毎日2時間以上勉強していますが、全くしない生徒も約11%いました。

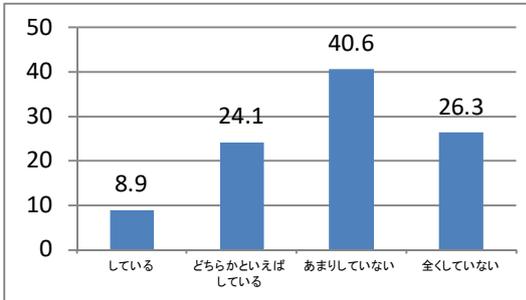
授業以外で、普段、一日あたりどれぐらいの時間勉強しますか



3 計画を立てて、継続して学習しましょう。

計画を立て、確認しながら学習することは、生活習慣の改善にも役立ちます。

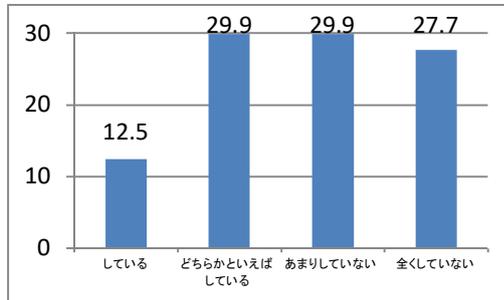
計画を立てて勉強をしていますか



4 工夫してバランスよく、予習・復習をしましょう。

半分以上の生徒が予習・復習をあまりしていませんでした。予習→学校の授業→復習の習慣をつけましょう。

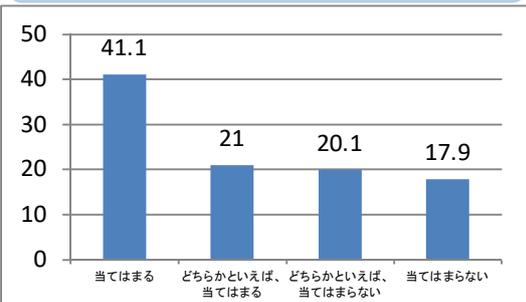
家で学校の授業の予習・復習をしていますか



5 目標を持って日々生活しましょう。

夢や目標があれば、計画を立てやすく、日々の生活で自分が何をすべきかがはっきりします。

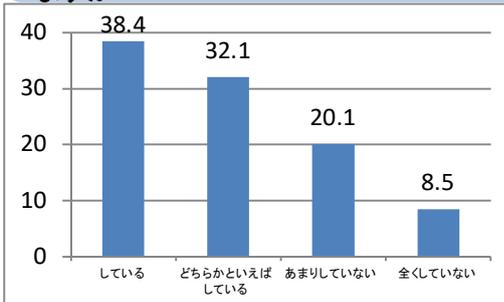
将来の夢や目標をもっていますか



6 家庭で学校の事、将来の事を話し合しましょう。

学校の事については約7割の生徒が話をしています。夢や目標も話題にしてみてください。

家の人と学校の出来事について話をしますか





2018年10月23日 合唱祭 3年学年合唱